

群馬県立嬭恋高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	3コース制・連携型中高一貫教育・スケート全国募集等が嬭恋高校の特色として生かされていると考える生徒・保護者・職員が80%以上である。	・「魅力化プロジェクト」の活動を中心に、将来の嬭恋高校を見据えた内部改革と外部への情報発信を行う。 ・中高一貫教育推進委員会により、交流授業を中心とした各教科間の連携や、単発授業での交流、委員会活動や部活動での連携の充実を図る。	B	A	A	3コース制・連携型中高一貫教育・スケート全国募集等が嬭恋高校の特色として生かされていると考える職員は79%、生徒は97%、保護者が96%であった。 授業アンケートが授業力向上に役立っていると感じている職員は86%、生徒は78%であった。 学校が好きだと思えるような環境を整えていると考える職員は93%、学校が好きだと感じている生徒は84%、子どもが学校が好きだと感じている保護者は96%であった。 授業アンケートの意義を生徒に伝えられるように、教員も授業に工夫を施す必要がありそうだ。	・学校評価から探究授業の成果が出ていることがわかった。新しくなる嬭恋会館の活用なども視野に入れていくとよい。 ・村や地域との連携を積極的に。卒業生なども活用していけるとよい。
		授業アンケートが授業力向上に役立っていると感じている職員・生徒が80%以上である。	・授業アンケートの結果の分析をもとに、個々の教員の授業改善や教科全体の指導力向上につなげる。	A	B	A		
		自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	・YouTube「つまチャン」で生徒の活躍を紹介し、生徒の「嬭恋愛」を高める。 ・生徒が意欲的で活気に満ちた高校生活を送れるような環境を整え、生徒を指導する。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	生徒の実態を踏まえた学習指導に生徒の70%以上が満足している。	・基礎学力の定着だけでなく、成績上位層の能力も伸ばす。 ・学習端末や学習アプリの活用により、個別最適化した学びを促す。	/	A	A	嬭恋高校での学びに達成感・満足感を感じている生徒は95%であった。 総合的な探究の時間に、生徒が意欲的に取り組んだ感じた職員は100%、主体的・意欲的に取り組んだ生徒は92%、総探が十分な成果をあげていると感じている保護者は96%であった。 習熟度別授業などに満足している生徒は92%、習熟度別授業などが十分な成果をあげていると感じている保護者は96%であった。 生徒が検定取得に意欲的に取り組んでいると感じる職員は86%、積極的に取り組んでいると感じている生徒は68%、保護者は78%であった。	・生徒がのびのびしてよい。教師の手厚い支援を感じた。 ・少人数なので学校の実態がよくわかった。 ・良くも悪くも人数が少ない。目が届いてよい部分と少なくても活気がない部分がある。
		総合的な探究の時間に、意欲的に取り組んだと自己評価している生徒が70%以上である。	・各学年で生徒に身に付けさせたい能力を明確にした年間計画を立てる。 ・事前指導・事後指導を充実させ、行事のねらいが生徒に伝わるようにする。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	幅広い選択科目を設定した教育課程や習熟度別授業・少人数授業・TT授業等に、生徒、保護者の80%以上が満足している。 各種検定に向けて主体的に取り組む生徒が60%以上である。	・教科の枠を超えた教員同士の授業観察と授業方法の情報交換を推進する。 ・ICTの活用や「主体的対話的な深い学び」を推進し、授業がより充実した双方向的な活動となるよう改善を図る。 ・日本漢字能力検定、実用英語技能検定、実用数学技能検定、全商各種検定試験等に向けての指導を考え、工夫して生徒の興味関心を高める。	/	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	毎日の全校一斉清掃により校内美化に取り組み、毎日しっかり取り組んでいると感じている生徒が90%以上である。	・校内の環境美化や清掃に対する意識を高め、全校清掃に生徒・教員とも積極的に取り組む。 ・日頃から整理整頓を呼び掛け、汚さない・散らかさない生活を生徒に心掛けさせる。	A	A	A	生徒が毎日の校内清掃活動にしっかり取り組んでいると感じる職員は93%、しっかり取り組んでいると感じている生徒は95%、保護者は96%であった。 生活アンケートなどがいじめの防止や解決に役立っていると感じる職員は100%、生徒は87%、保護者は89%であった。 生徒は自分から進んで挨拶をしていると感じる職員は100%、自分から進んであいさつしていると感じている生徒は92%、保護者は93%であった。 生徒の遅刻は1日あたり0.8人で、全校生徒の1%（4.5人）を大きく下回っている（2学期末現在）。また出欠状況について担任と十分に連絡が取れていると感じている保護者は100%であった。 出欠状況の連絡が担任と十分取れていると感じている保護者が100%であったことは、嬉しい結果であった。来年度以降も出欠状況のやりとりから、少しずつ保護者と信頼関係を築いていきたい。	・先生たちが生徒に対し情熱を持って教育にあたっていることがわかった。 ・子どもが学校が楽しいと言っている理由が、学校に来てみてわかった。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めている。	・月1回以上の生活アンケート、生徒面談、職員間の情報交換によりいじめの防止や早期発見に努める。 ・授業や学校行事の中で、生徒の人間関係を構築する。 ・保護者との連絡を密にし、連携を強化する。	A	A	A		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	あいさつの励行を呼び掛け、自分から進んで挨拶する生徒が90%以上である。 生徒の1日平均の遅刻者は、全校生徒の1%以下である。	・集団の人間関係を円滑にするために、自ら進んであいさつを行うなど、社会で通用するマナーを身に付けさせる。 ・遅刻確認用紙により遅刻者の把握をし、個別に指導を行うとともに、家庭と協力して生活習慣の見直しを行うなど、根本的な解決を図る。	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	進路を意識した準備に取り組んでいる生徒が、70%以上である。	・面談をきめ細かく行い、生徒の進路意識を高める。 ・進路ガイダンスや分野別指導を通して、進路に対してより具体的なイメージをいただけるようにする。	A	B	A	生徒が進路を意識した準備に取り組んでいると感じる職員は72%、卒業後の進路を意識して準備できていると感じている生徒は78%、保護者は93%であった。 生徒が進路ガイダンス等の進路行事に積極的に取り組んでいると感じる職員は86%、進路行事に積極的に取り組んでいると感じている生徒は89%であった。 生徒にとってはやや漠然と感じてしまう卒業後の進路について、日々取り組んでいる学びや学び姿勢が卒業後も役立つこともある、と伝えていくことも大切なかもしれない。	・進路実績が上がるとよい。社会生活で役立つ力をつけさせてほしい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路関係の指導を真剣に受け、進路関係の行事に積極的姿勢で参加したと自己評価している生徒が70%以上である。	・進路ガイダンスや職場体験学習などを通して、職業の関心と理解を深める。 ・事前指導・事後指導を充実させ、行事のねらいが明確になるようにする。	A	A	A		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	中学生、保護者及び、地域の方々に本校の取組について理解してもらうために、学校の様子を積極的に発信していると考えられる職員・保護者が80%以上である。	・YouTube「つまチャン」による積極的な情報発信を行う。 ・嬭高だよりを年9回以上発行し本校に対する理解を深めてもらう。 ・吾妻郡内を中心とした中学校を訪問し、本校の取組について理解を深めてもらう。	B	A	A	学校の様子を積極的に発信していると考えられる職員は79%、情報発信の取り組みが十分な成果をあげていると感じる生徒は95%、保護者は93%であった。 図書館については30日以上、体育館やトレーニングセンターについては150日以上以上の開放を行っている。 広報については、校内でのワーキンググループの議論も踏まえ、より効果的な方法を今後も模索していく。	・YouTube「つまチャン」も地域へのPRになっているので、引き続きがんばってほしい。 ・地域との連携の中で農家の情報発信への協力ができることよいか。 ・図書館の環境がよい。
		図書館や体育館などの学校の施設の開放が、年間100日以上である。	・図書館の地域開放を行っていることを地域の方々に知ってもらう。 ・多くの方が利用しやすい時間帯や曜日の設定をする。	A	/	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	Chromebookを活用した授業が全体の50%以上である。	・Chromebookの活用について定期的な研修を行う。 ・Chromebookを用いた指導法について情報交換の機会を設ける。	A	A	A	ほぼすべての授業でChromebookが使用されている。Chromebookを活用した授業が十分に行われ、成果をあげていると感じている生徒は100%、保護者は89%であった。 全ての職員会議がペーパーレスで実施されている。これにともない紙資源の約6割カット、経費の約4割カットを実現した（紙100箱→40箱。経費160,000円→90,000円。5年前比）。 Chromebookを活用した授業は、嬭恋高校の強みとして今後も積極的に授業で活用していく。	・ICT機器の活用ができている。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ペーパーレスの職員会議を年5回以上行う。	・クラウド機能を活用し、資料の共有をデジタルで行い、印刷にかかる時間や経費を軽減する。	A	/	A		